

Key
Person



(株)ジー・ジェイ・エクスプレス 代表取締役
ESAKA BOXING CLUB 江坂ボクシングクラブ 会長代行

福山 正治

元世界王者の渡辺二郎氏に憧れてボクシングの世界に入った福山社長。
現在は『江坂ボクシングクラブ』の会長代行兼トレーナーであると共に、
運送会社『ジー・ジェイ・エクスプレス』の社長も務める。
社長に就任した当時の経営状態は非常に悪く、立て直しは容易ではなかったが、
「自分にはこの仕事しかない」と心血を注いで仕事に当たった。
そして、新たなクライアントを開拓し、受注を安定化。見事に業績回復に成功した。
「私は決して諦めない根性を持っている。その根性はボクシングから学んだのです」
その尽きせぬ根性で、社長は今後も同社を成長させていく。

「私は決して諦めない根性を持っている。
その根性は、ボクシングから学んだのです」



『(株)ジー・ジェイ・エクスプレス』
代表取締役

『ESAKA BOXING CLUB』
会長代行

福山 正治

大阪府東大阪市出身。16歳でWBA世界Jr.バンタム級王者の渡辺二郎氏に憧れてボクシングを始め、日本ランカーと対戦するなどの活躍を取めた。引退後は『江坂ボクシングジム』のトレーナーに就任、現在は会長代行も兼ねるかたわら運送会社である『ジー・ジェイ・エクスプレス』の社長も務めている。

門真市を拠点に建築資材の運送や引越コンテナ輸送業などを手掛ける『ジー・ジェイ・エクスプレス』。同社を率いる福山社長は元プロボクサーで、現在は『江坂ボクシングクラブ』の会長代行も務めている。ボクシングで培った根性が、今の会社経営に大きく活かされていると語る社長に、タレントの板東英二氏がそれぞれの仕事について詳しく伺った。

16歳からボクシングに関わり トレーナーとして世界王者を育てる

——福山社長は、ボクシングジムの会長代行兼トレーナーとして、また会社の社長として活躍されていると伺いました。まずは、ボクシングに携わった経緯からお伺いします。

ボクシングを始めたのは高校2年生のこと。それまでは野球をしていたのですが、かねてより個人競技に挑戦したいという想いを抱いていたのです。そんな折、スポーツ紙の記者をしていた親戚に誘われ、渡辺二郎さんの世界タイトルマッチ

を観に行きました。ラファエル・ペドロサを判定で下してWBA世界Jr.バンタム級王座を獲得した試合でした。それで渡辺さんに憧れてボクシングを始めたんですよ。2年後には渡辺さんのスパーリングパートナーを務めることもできました。今でも渡辺さんは憧れの人で、人生を変えてくれた恩人だと思っています。——渡辺さんとは私も数年前にお会いしました。とても気さくな方ですね。ところで社長はプロに進まれたのですか。

ええ。ただプロボクサーとしては新人王の西日本決勝戦に出場するのがやっとだったくらいで、勝ったり負けたりで全

然ダメでした。現役時代の目標は、タイトルなど大きな称号を手につけること、最低でもデビューから4年のうちに、日本ランカー以上になること。しかし、その4年目に行った日本7位の選手との試合で敗れてしましまして……。その後もなかなか上位の壁を破ることができず、引退。選手を指導するトレーナーに転身したのです。この『江坂ボクシングクラブ』では、創設以来トレーナーを務め、現在は会長代行を務めています。現役時代は感情をコントロールできず、自分の課題を振り返ったり、冷静に分析することができませんでした。しかし、今はそうした当時の自身の課題も分かるようになりましたし、分析もできます。こうして体得した経験や技術を、後進たちに伝えていきたいと思います。幸い教え子たちには恵まれていて、中には世界チャンピオンベルトを巻いた選手もいるんですよ。

経営危機にあった会社を引き受け 6年掛けて経営を立て直す

——トレーナーとして活躍されている社長ですが、どのようにして会社経営に携わるようになったのでしょうか。

トレーナーに転身した同時期に、大手ハウスメーカーの引っ越し部門に就職しました。ただ、15年ほど経った時に、東京への異動辞令が出まして……。ちょうど教え子が西日本の新人王になったこ

トレーナーとして経営者として 一途に仕事に励み、成功を掴んでいく

COMPANY PROFILE

株式会社 ゴー・ジェイ・エクスプレス

【本社】大阪府門真市常盤町3番3号 コーポタカハシ A-104号
【神戸営業所】兵庫県神戸市東灘区向洋町西6丁目6番 株朝日通商内
【門真車庫】大阪府門真市岸和田2丁目22-3

ESAKA BOXING CLUB 江坂ボクシングクラブ

大阪府吹田市南金田2丁目15-27
URL : <http://www.esaka-gym.com/>



Special Interview

ろで、当時ジムには私以外教えられる人間がいませんでしたから、「この子を置いて東京には行けない」と固辞して退社。取引先の社長に誘われて、この『ジー・ジェイ・エクスプレス』の前身の会社に入社しました。——教え子のために大阪に残られたのですね。

ええ。ただ、私が入った当時は深刻な経営危機に陥っており、私の役目は経営を立て直すことだったのです。やがて負債もろとも会社を買収して、社長に就任。周りの先輩社長からは経営的な惨状から、「一度会社を潰したほうがいい」と口を揃えて言われましたね。そんな中、父の典雅だけが「お前には運送屋しかできへんやろ。ボクサーとしてイチかバチかで勝負してきた根性でいかんかいっ」と背中を押してくれたのです。それで会社を潰さない決意を固め、『ジー・ジェイ・エクスプレス』として新たなスタートを切りました。

——お父様の檄が効きましたね。ところで、御社名の「ジー・ジェイ」という言葉には、何か由来があるのですか。

ええ。社員には、良い仕事をして大きく伸びるという意味の『GOOD JOB BIG PROGRESS』の略と言っているのですが、本当は、私がボクサー時代に苦しめられた「グラスジョー」……ガラスの顎に由来しているんです。私は顎が弱くて顎にパンチをもらうと、脳しんとうを起

こしてしまう体質でした。しかし、試合になると負けん気を抑えきれず打ち合いにいつてしまい、逆に倒されてしまっていたのです。それで、「ボクシングでは失敗した。第二の人生まで失敗する訳にはいかない」という覚悟でいましたから、「グラスジョー（G・J）」でも走り続けるで！（EXPRESS）」という意味を込めて、『G・J・EXPRESS』としたんですよ。——なるほど、社長の強い決意が込められた名前だったのですね！ 厳しい状況での社長就任でしたが、実際に会社を経営してみてもいかがでしたか。

覚悟を決めて、命懸けで仕事にあたったことで、社長を引き受けた6年後には負債を全て返済し、事業を立て直すことができました。現在はハウスメーカーを相手に、建築資材を運送する仕事などを行い、安定した業績をあげることができていますよ。

——努力の末に、成功を掴み取られたのですね。

ええ。私がこれまで様々な先人の経験

談や自叙伝に接してきた中で、経営にあたって一番共感したのは「経営者は人の倍働きなさい」という言葉でした。経営者となれば誰かが助けてくれるわけではない。その分自分が踏ん張る必要があると、その言葉を実践するようにして頑張っています。——人の倍ですか！ それはなかなかできることではないですよ。

そうした努力ができたのも、ボクシングがあったから。現役時代に決して諦めない根性を培ったからこそ、社長になることができたし、事業を立て直すこともできたと思っています。そうして懸命に仕事をしていると、大きなピンチの時には社員たちが頑張ってくれたりもして、ありがたかったですね。これから先も、大きなピンチが立ちふさがることがあるかもしれません。しかしそうした時にも決して諦めることなく挑戦を続け、皆と協力して乗り越えていきたいと思っています。

（取材／2017年4月）

After the Interview

「かつて勤めていた会社で異動の辞令が出た時に、『教え子を置いては行けない』と、大阪に残ることを選んだ福山社長。その後、先代の社長さんに請われて経営危機にあった『ジー・ジェイ・エクスプレス』さんの前身の会社に入り、ピンチを救ったエピソードからは、社長が強い情と責任感、引き受けたことをやり遂げる意志の強さを持っていることが窺えました。それらの力も、ボクシングで培われたものなのでしょう。今後ますますのご活躍を期待していますよ！」



板東英二

Column
現役時代は左ボクサータイプの選手として活躍した福山社長。パンチ力、テクニク、スピードを備えたボクサーで、デビュー戦は1ラウンド42秒でKO勝ち。その後、新人王の西日本決勝戦に出場した。しかし、一意専心にボクシングに励みながらも、目標のタイトルを獲得することなく引退。社長は「当時の自分には感情をコントロールし、戦い方を分析する冷静さがなかった」と当時を述懐する。しかし同時に「そう考えるのは結果論で、ボクシングは私の天職ではなかったという。そして現役引退後、第二の人生で成功する人もいる」と、引退後の人生をどう送るかが大事だと強調する。そんな社長は、引退後はトレーナーとして活躍、また経営者として経営危機に陥っていた『ジー・ジェイ・エクスプレス』の前身となる会社を立て直すなど、第二の人生をより良いものにするため、奮闘している。「運命は努力によって変えられる。自分を信じて精一杯生きる限り、可能性がある。情熱ある人生を、社長は今後も歩み続けることだろう。」